

令和4年度第2回秋田県男女共同参画審議会要旨

■日 時

令和5年3月20日（月）15：00～16：25

■場 所

秋田県議会棟2階特別会議室

■出席者

【秋田県男女共同参画審議会委員】

飯塚委員、越前委員、熊谷委員、高島委員、長岐委員、長谷川委員、堀井委員、
柳田委員

【事務局】

陶山理事、水澤あきた未来創造部次長、六澤次世代・女性活躍支援課長、佐藤次世代
・女性活躍支援課政策監 ほか関係職員

■会議の成立

（事務局）

本日は審議会委員10名中8名の出席をいただいております、過半数に達しているため、
秋田県男女共同参画推進条例第22条第3項の規定により、会議が成立していることを
報告する。

■議 事

（1）会長選出、会長代理・苦情処理部会委員指名、苦情処理部会長選出について

○委員の互選により、堀井委員が会長に選出された。

○会長から、会長代理には柳田委員、苦情処理部会委員には飯塚委員、遠藤委員、長
岐委員、柳田委員が指名された。

○苦情処理部会委員の互選により、長岐委員が部会長に選出された。

◎堀井会長あいさつ

男女共同参画の推進は、秋田県の数ある社会課題の中でも最も重要であり、スピード感
をもって進めていかなければならないと捉えている。

社会の半数以上を占める女性が、未だに社会に潜む壁に直面し、十分に活躍できない状
況であることを、真剣に捉えなければならないと思っている。

人の移動が停滞していたコロナ禍でさえ、若い女性の県外流出は止まらなかったこと

を踏まえ、私たちの社会は女性、とりわけ、未来ある若い女性に選ばれていないという厳しい現実を念頭に置いて、どうしたらよいかを考えていかなければならない。

男女平等が実現することなしに、持続可能な活力ある社会は築けない。

審議会は県にとっての重要事項を審議し、意見していく場であるので、活発な意見交換が進むよう、微力ではあるが尽力したいと思っている。どうぞよろしくお願いします。

○越前委員

苦情処理部会の委員を決めたが、苦情処理部会というのはどのようなものなのか。

●次世代・女性活躍支援課

秋田県男女共同参画推進条例に規定する苦情には、県の施策に対するものと、それ以外の2種類がある。県の施策に関するものではない性別による人権侵害等の被害に関しては条例第17条により、男女共同参画苦情調整委員が対応するが、県の施策に対する苦情は条例第18条によりこの審議会に諮問することとなっているため、苦情処理部会を設置し、苦情があった場合に備えるものである。

議事（2）について

●次世代・女性活躍支援課

第5次秋田県男女共同参画推進計画の取組状況について資料1に基づき説明。

◎堀井会長

それではただいまの説明について、御意見、御質問等があればお願いします。

○越前委員

目標の達成状況について、現時点では概ね順調との説明があったが、個別に見ると達成率が高いものと低いものがある。達成率の低いものに対しては当審議会での意見を反映して施策に組み込まれることもあるのか。

●次世代・女性活躍支援課

達成率などの状況を踏まえて、今後の事業の内容や進め方などについて御意見をいただきながら事業を進めていくことは十分あり得るので、様々な御意見をいただきたい。

第5次計画は、令和3年度から7年度までの5か年の計画であり、最終の目標値に向けて、毎年度、予算の前に審議会を開催し、皆様の意見を伺い、反映させていきたい。

◎堀井会長

男女共同参画推進計画の取組状況に対する質問等がないようであれば、各委員のお立場から、男女共同参画への関わりやお考えを伺いたい。

○飯塚委員

自分たちの会社は子会社も含め 170 人前後の従業員がおり、年々従業員が増える中でどのように取り組めば男女とも働きやすい会社作りができるかを考えながら取り組んできたが、その取組や成果を社内だけではなく業界の中でも事例として紹介したり、セミナーの機会に発表したりしている。

県内の企業からは、男女共同参画の必要性は分かるが、どうやって推進したら良いか分からないという声をよく聞く。単に先行事例を紹介するだけではなく、より細かく提案、サポートできるシステムがあれば企業もより取り組みやすいと思う。

○高島委員

自分は F・F 推進員であり、県内に F・F 推進員は 100 人くらいいるが、なかなか思うような活動ができていない人もいる。デート DV 講座を提案しても高校から断られた推進員もいてモチベーションが上がらない。

若年女性の支援は、秋田への定住、少子化対策につながっていくものと考えているが、パートナーが対等で安全な生活ができなければ、その土地に住んで結婚して子どもを産むということにはつながらないと思う。互いに尊重し合あうことや、相手に対して、やってはいけないことを知ってもらうことは地道ではあるが重要であると思っている。F・F 推進員が力になれるのであれば、高校以外でもデート DV の講座ができるようになることを期待している。

また、若年女性に関していえば、県内にある女性の相談先は敷居が高く感じるのではないかな。若い女性が相談しやすい窓口があると良い。

○熊谷委員

学校の中では、生徒のキャリア教育という切り口で男女共同参画を考える機会があるが、推進の柱「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の強化」の指標のうち、「学校では男子も女子も同じように活躍の場があると考えている児童生徒の割合」に関していえば、生徒はあまり意識していないのではないかなと思う。現在は、小中高と進んでくる過程で、互いに尊重しあう協働的な学習が行われており、自分たちが何かを計画して進めるときには男女差なく話し合う場が自然発生的にできている。

その中で培われたものは社会に出たときに役立つ見方、考え方になると思うが、本日、これまでの話を聞いていて、教育の場でも、「男女共同参画」とはこういうことだと意識

し理解させる機会が必要だと感じた。

女性管理職の数は義務教育では多いが高校教育の現場では少ないのが現実である。

それによって会議や協議の場において支障があるわけではないが、もう少し女性の数が多い方が、いろいろなことを進める上で新たな視点を取り入れることが可能になるのではないかとも思う。

○長谷川委員

計画の中の推進の柱の中に「女性の活躍推進」という言葉があるが、全国的に男性中心の会社が多い一方で、中には女性中心の会社もある。ある女性が多い会社では、男性職員の発言は文句、女性職員からの発言は意見と捉えていた女性リーダーがいたと聞いた。俗に言う、男性社会の逆転現象が世の中に存在することも認識した上で、男性中心の会社においては女性が活躍し、女性が中心の企業では男性が活躍する職場づくりへの取組も必要である。

女性活躍推進と並行して男性の育児・介護への参画があるが、そのためには上司の理解や男性自身の意識改革が必要であるので、NPO 法人ファザーリング・ジャパンでもイクボスセミナーなどを行っており、こういった活動を通してそれが当たり前の社会になるように進めていけたら良いと考えている。

また、大きくくりでは男女共同参画だが、ダイバーシティやジェンダーレスが叫ばれる中で、男女共同参画という言い方で良いのか、例えば、ジェンダー平等参画の方が、出生時の性と異なる方にとっても配慮した内容と受け止められるのではないかと考える。

○長岐委員

推進の柱2の中にある「性暴力のハラスメント等の根絶」について、様々なハラスメントの相談体制は整備されてきていると思う。DV 予防教育がどういう内容なのか詳しくは把握していないが、家庭でDV、あるいはDVの疑いがある状況にある子どもはいると思うので、予防教育をする際は、相談窓口とセットで案内するように実施してもらいたい。若い人ほど、堅い雰囲気 of 相談窓口はハードルが高く、SNS 相談の需要が高くなる実情があるので、気軽な相談窓口の設置も含めて検討してもらいたい。

また、母子家庭の年収240万円以上の世帯の割合という指標があるが、240万円という額は十分な生活を送れる金額ではない。この金額を基準として良いのかという疑問も残り、240万円をクリアしたことをもって目標を達成したということでは、真の意味での男女共同参画社会の実現とは言えないのではないかと。240万円という金額は何か根拠があって定めている額だとは思いますが、次回の計画策定の際はこの金額で良いのかという点も検討していただきたいと思う。

自分自身、1歳と2歳の子どもがおり、今日も、上の子が熱を出し実家の援助を受けて

参加している。企業では様々な取組や工夫がなされていると思うが、特に個人事業主として働いている女性は、仕事に穴を開けたくない思いながらも、子どもが休むと仕事ができないということになってしまう。病児保育もあるが、まだ使い勝手が良いとは言いがたく、簡単ではないと思うが、働きやすい環境を作るためにはどういったサポートができるかを検討し、充実させていって欲しい。

○柳田委員

商工会連合会では、県から委託を受けて、あきた女性活躍・両立支援センターを運営しており、その活動は、指標 No1、2 にある一般事業主行動計画と関係している。妊娠中や産休・育休から復帰後の相談窓口の設置や、男性の育休の取得促進に向けた対策を行動計画に盛り込む支援などを行っているほか、計画策定を支援するため、県内 3 か所に相談員を置いて、個別に企業を訪問して具体的な相談にも乗っている。その結果、計画策定企業数は順調に増えており、企業訪問している相談員も、経営者の男女共同参画や女性の活躍推進、仕事と子育ての両立などに対する認識は、センターを設置した平成 30 年当初よりも向上していると感じているようである。

一方で、理事の話の中で、内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」では男女の地位が平等であると答えた人の割合が低下していると聞いて、男女共同参画の理解は広まっているにもかかわらず世論調査では数字が下がっているのにはどういった要因があるのかを考えていきたいと感じた。相談員が企業を訪問している感覚と、一般の方の意識がかなり差があるという点に驚いた。

女性の経営者に女性の活躍推進について聞くと、秋田の女性は一步引くところがあるので、もっと自信をもったほうが良いのではないかという意見があるので、実際に活躍している女性のモデルが多く出てくるのが一番良いと思う。

○越前委員

目標の達成率を見ると、低いものもあるが高いものもある。男女共同参画センターが設置されて昨年で 20 年が経過したが、これまでセンターとともに活動してきて、20 年間に確実に成果が出ている部分もある。

県の施策で、男女共同参画センターを 3 か所に設置したという出発点が素晴らしかったと思う。3 つの拠点を中心に施策を展開してきたことの成果が十分に出ている。達成率が低いものは難度が高いものばかりであり、概ねよくここまでやってきていると感じている。引き続き、3 か所の拠点を維持して、発信拠点として支援していただきたい。

◎堀井会長

今までの意見を踏まえて事務局から何かレスポンスはあるか。

●次世代・女性活躍支課長

県内の3か所の男女共同参画センターは、設置から21年が経過したが、同時に、F・F推進員も地域において本県の男女の固定的役割分担意識の解消に向けて熱心に取り組んでいただいております。意識の解消はかなり進んでいると感じています。

県の取組や地域の皆様の協力によって、確実に意識改革が進んでいる一方、コロナの影響もあり、女性が活躍するという視点では困難を有する女性の問題など、新たな問題も出てきている。

秋田県が持続可能な社会になるためにはどうしたらよいのかについてもそれぞれの立場から新たな視点での御意見をいただきたいと思っているのでよろしくお願いします。

議事（3）について

●次世代・女性活躍支援課

第5次秋田県男女共同参画推進関連事業について資料2－1に基づき説明。

【質疑応答】

特になし。

◎堀井会長

特にないようであれば、議事（4）その他として、全体的に本日の会議の内容を踏まえて何か御意見等はないか。

特になし

◎堀井会長

それでは、以上をもって、議事は終了したので進行を事務局にお返しする。

●次世代・女性活躍支援課

今回は、9月～10月頃に、令和4年度の進捗状況を報告するとともに、次年度の事業内容等に対して御意見をいただきたいと思っているのでよろしくお願いします。

以 上